

小学校外国語活動だより

vol. 10

H22. 2. 17 山口県教育庁義務教育課

小学校中核教員外国語活動実践研修会の報告

平成22年1月19日（火）岩国市立川下小学校、20日（水）山口市立湯田小学校で開催された「小学校中核教員外国語活動実践研修会」の様子を紹介します。

2日間を合わせて、400名を超える参加者がありました。校内研修を含め研修を実施することの重要性と意義を改めて実感しました。参加者には各学校でしっかり復伝をしていただきたいと思います。

岩国市立川下小学校

○ 日程 10:55 11:25 12:05 13:00 :45 14:05 :15 15:45 16:00

受付	公開授業	昼食	示範授業	休憩 移動	開会 行事	フォーラム	閉会 行事
----	------	----	------	----------	----------	-------	----------



【6年3組小嶋二郎教諭の授業】



【5年1組永田啓子教諭とALTとのTT】



【直山木綿子教科調査官の示範授業】



【直山木綿子教科調査官の示範授業】



【示範授業での児童・参加者の様子】



【フォーラム】

【公開授業】 小嶋二郎教諭の授業では、6年生の子どもたちは英語で堂々と入国審査時における入国審査員と旅行者のやりとりをしていました。永田啓子教諭の授業では、5年生の子どもたち同士で店員やお客の役を演じたり、ALTと受け答えをしながらスペシャルランチメニューをつくりました。子どもたちの興味関心、学年や学級の実態に応じた、教材提示や活動の工夫がなされていました。

【示範授業】 6年1組の子どもたちを対象に、英語ノート2 Lesson6「行ってみたい国を紹介しよう」の単元の1時間目の授業でした。導入段階で、子どもたち一人ひとりとあいさつを交わし名札を手渡ししながら、子どもたちの様子をつぶさに見取り、つぶやきや反応に臨機応変に対応される様子は、外国語活動の本質である、「コミュニケーション能力の素地の育成」「人とのかわりを大切にする」を実感するものでした。国旗絵カード、電子黒板による国名当てやビンゴゲームなど授業の展開に合わせ、子どもたちが授業に引き込まれ、表情が生き生きとしていく様子を見て、四重五重に子どもたちを囲んだ参加者の表情に感嘆の様子が浮かんでいきました。

【フォーラム】 県教育庁義務教育課中馬好行課長の進行役により、文部科学省初等中等教育局直山木綿子教科調査官と前教科調査官である大阪樟蔭女子大学菅正隆教授に外国語活動導入の背景、ねらい、担任の役割、学級経営の重要性、音と文字の関係、小・中学校のねらいの違いと連携の重要性など、外国語活動における留意点等について、和やかな雰囲気の中で、ユーモアを交えて具体的にお話いただき、時折笑いが沸き起こるなど、大変充実したフォーラムでした。

山口市立湯田小学校・カリエンテ山口

○ 日程	11:00	:25	12:10	13:20	14:05	:20	:30	15:50	16:00	:30	:45
	受付	公開授業	昼食	示範授業	休憩 移動	開会 行事	パネル ディスカッション	休憩	講話	閉会 行事	



【6年3組三浦俊昭教諭とALTとのTT】



【直山木綿子教科調査官の示範授業】



【示範授業での参加者の様子】



【パネルディスカッション】



【直山木綿子教科調査官の講話】



【全体会の様子】

【公開授業】 英語ノート2 Lesson9「将来の夢を紹介しよう」を教材に、ALTとのチームティーチングで授業が進められました。担任とALTがなりたい職業について、ゼスチャーを交えて尋ねたり答えたりする場面があり、子どもたちは興味深く聞いていました。ビンゴゲームや列ごとに隣の人に尋ねるチェーンゲームなどで、新出表現に慣れた後は、実際に新出表現をインタビューゲームで使用しました。

【示範授業】 5年1組の子どもたちを対象に、英語ノート1 Lesson8「時間割をつくろう」の単元2時間目の授業でした。川下小学校同様に、一人ひとりの子どもとあいさつを交わしながら名札を手渡すなかで、子どもの反応に当意即妙何通りものほめ言葉をかけて、気持ちを掴んでおられました。教科名の絵カードを使っての発音練習では、手の動きでイントネーションを表現したり、ステップでリズムを刻みテンポよく繰り返すなど、日々の授業に取り入れたい工夫がたくさんありました。

【パネルディスカッション】 広島大学大学院深澤清治教授の進行のもと、阿知須小学校岸田カナエ校長、上関町教育委員会渡部靖徳課長補佐、大内南小学校小野晃子教諭に「小学校外国語活動の円滑な導入と適切な実施に向けて」というテーマでお話いただきました。教育委員会として学校をどうサポートし、研修会を企画するのか、校長としては校内人事体制・研修体制をどうすべきか、担任としては具体的な授業の進め方、教材づくりをどうすればいいのかなど、外国語活動を円滑に導入する上で、貴重な示唆をたくさんいただきました。

【講話】 文部科学省初等中等教育局直山木綿子教科調査官に1日の研修を総括してお話いただきました。公開授業についてのコメントから御自身の授業のポイント、さらにはパネルディスカッションについて、具体的場面や語られた言葉を引用してのお話に参加者は傾きながら聞き入っていました。

「外国語活動の授業だからと、子どもたちにことさら大きな声や満面の笑顔、大仰な身振りなどを求める必要はありません。外国語活動の授業を特別扱いすれば、外国語を特別扱いし、さらには外国語を話す人を特別視して対等な関係が築けなくなることにつながりかねません。外国語活動を特別な授業にしてはいけません。」「英語で心を開かせ、共生の心を育むことが大切です。」「外国語活動のねらいはスキルの獲得ではありません。」等の御指摘は、とても重要だと感じました。